

3 - 10 館山における地殻変動連続観測 (2)

Crustal Strain Observation at Tateyama Crustal Activity Observatory (2)

国土地理院 地殻調査部
Crustal Dynamics Division,
Geographical Survey Institute

第1報¹⁾に引き続き、館山地殻活動観測場における水晶管伸縮計による地殻変動について、1975年10月までの解析結果を報告する。

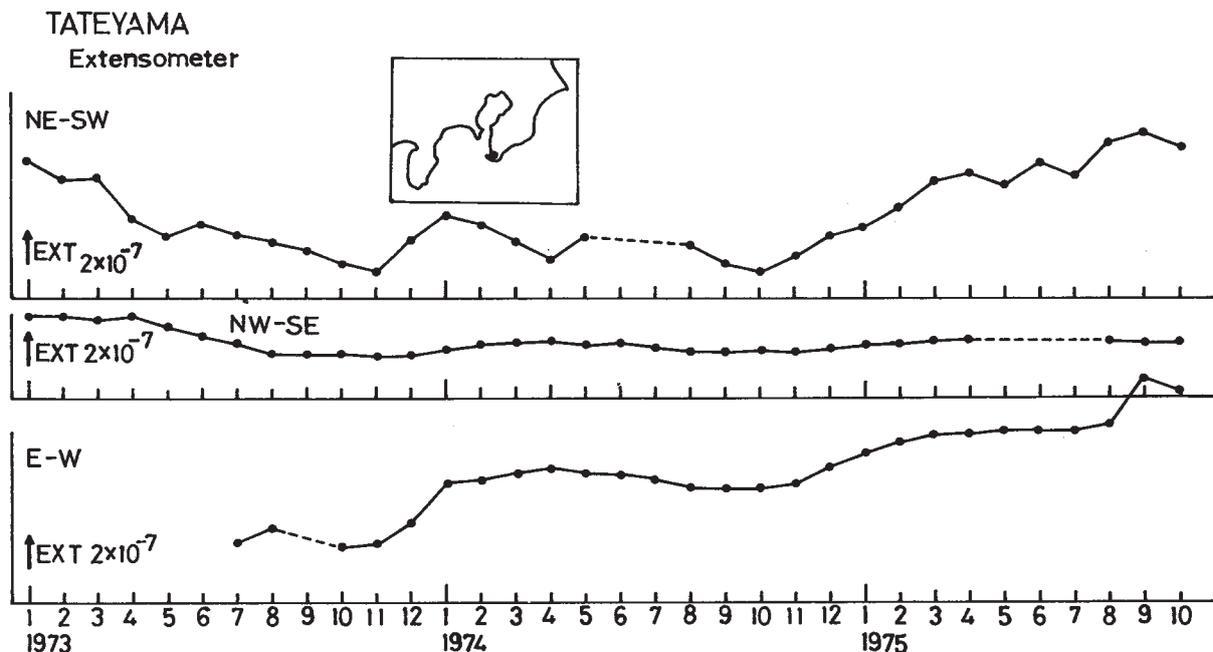
第1図は伸縮計3成分の月平均値よりもとめた地殻変動を表わしたものである。

NE - SW 成分については、1974年10月まで $1 \sim 2 \times 10^{-7}$ /年の割合で縮んでいたが、その後傾向は伸びにかわり、その割合はおよそ 6×10^{-7} /年である。

NW - SE 成分では大きな変化はみられない。E - W 成分については、傾向並びに変化率は特に変わらず、その後もおよそ 3×10^{-7} /年の割合で伸びているようである。

参 考 文 献

- 1) 国土地理院地殻活動観測室, 館山における地殻変動連続観測(1), 連絡会報, 13, 1975. 50 - 51



第1図 館山における地殻伸縮(月平均値)

Fig. 1 Crustal Strains at Tateyama (monthly mean values)